

みんなのた場

サークル仲間 ⑬

笑顔届けるフラダンス 家族のように集う場

ナープアモーハラ

フラダンスサークル「ナープアモーハラ」は、石巻市須江農村定住センターで毎月第1・3木曜日に活動しています。サークル名はハワイの言葉で「花開く」という意味。陽気な音楽とともにフラの魅力を楽しみながら学んでいます。

フラダンスサークル「ナープアモーハラ」は、石巻市須江農村定住センターで毎月第1・3木曜日に活動しています。サークル名はハワイの言葉で「花開く」という意味。陽気な音楽とともにフラの魅力を楽しみながら学んでいます。

「ナープアモーハラ」に所属するのは、現在4〜11歳の7人。「アイアラオペレ」や「リロの歌」などダンスのレパートリーは10曲以上。それぞれ曲で足運びや手先の所作など、細かく確認していきながら完成度を高めていきます。

鎌田薫穂さん(11)はフ



ナープアモーハラの皆さん



南国のリズムに合わせて、足運びや手の動きなどを確認していきます

ラを始め5年以上。幼稚園時代にフラダンスをしたことが忘れられず、サークルに参加したそうです。「踊ることでみんなに笑顔が届いていきたい」と日々の練習に励んでいます。

佐藤風紗さん(11)も5年以上の経験を持ち、友人のフラダンスを見て興味を持ったといいます。「ステージで踊って、見てもらうことが楽しいです。多くの人にフラの魅力を伝えられたら」と話していました。

只野代表は「コロナ禍で披露できる場が限られてしまっていますが、活動を続けながらフラで笑顔と元気を多くの人に届けたい」と熱心で丁寧な指導を行っています。

サークルでは随時見学を受け入れています。年齢は問わず、一緒にフラを楽しんでくれる仲間を募集中です。問合せは只野代表(☎0901298914704)まで。

ささえあいセンター通信 ⑤

～在宅医療・介護連携推進事業の取組について～

医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、在宅医療と介護を一体的に提供し、切れ目のない在宅医療と介護の提供体制を構築することを目的として、大きく6つの事業を行っています。

- ①地域の医療・介護の資源の把握
- ②在宅医療・介護連携の問題の抽出
- ③在宅医療・介護連携に関する相談支援
- ④地域住民への普及・啓発
- ⑤医療・介護関係者の情報共有の支援
- ⑥医療・介護関係者の研修



研修会の様子

市は、団塊の世代が75歳以上となる、いわゆる2025年問題を見据え、平成26年3月から取組を開始していますが、取組を進めていくには医療・介護関係者の連携はもとより、地域住民の方々の理解と行動化が何よりも必要不可欠です。このことから、今年度は、皆さんが在宅医療や介護に関心を持つことを最重要目的に取組を進めていきます。

●市民向け講座

- ・訪問診療の利用・内容について 10月13日(水) 午前11時～正午
- ・訪問看護の利用・内容について 11月30日(火) 午前11時～正午
- ・在宅介護の利用・内容について 12月14日(火) 午前11時～正午

ところ マルホンまきあーとテラス小ホール 定員 70人程度

●住民との多職種研修会

死にゆく人の心に寄り添う～スピリチュアルケアとは～

とき 12月1日(水) 午後1時30分～3時

ところ マルホンまきあーとテラス 大ホール

定員 400人程度

講師 非営利一般社団法人大慈学苑

玉置 妙憂氏

※詳しくはQRコードまたは電話で問い合わせください。

☎ 包括ケア推進室(ささえあいセンター内)

☎25-6659



市民講座



住民との多職種研修会

石森城跡調査区全景(東から撮影)



〔文化財たんぼ〕 118

「石森城跡の発掘調査」

石巻市教育委員会生涯学習課

令和2年8月から11月にかけて、牡鹿半島の大原浜で、県道石巻鮎川線給分浜復興道路の建設に伴い、石森城跡の発掘調査を行いました。石森城跡は、牡鹿半島では最も大きい城館跡(中世の砦の跡)と言われており、また、その範囲内には、伊達政宗の御仮屋跡(宿泊所)があります。ちょうど今の大原小学校の敷地内に当たります。城館跡の中心部(本丸

部分)は、地形からみて小学校のすぐ北側にあると思われませんが、今回は、そこからさらに北側の部分を東西に調査しました。その結果、溝跡や土塁、石が積み重なった石塁や石垣などを発見しました。これらの遺構は、わずかに出土した陶器などの時期から、中世の終わりから近世(江戸時代)にかけてのものと考えられ、城館跡にかかわる決定的な証拠はなかなか見

つけられず、主に伊達藩の御仮屋にかかわる遺構と判断されます。一方、今から5千年前の縄文時代前期に捨てられた土器や石器が溜まっている場所(遺物包含層)も発見され、周辺の遺跡から考えても、この地域は長い間人々の生活の場となっていたようです。今回の調査により、牡鹿半島の歴史を考えるうえで貴重な資料を得ることができました。この成果をまとめた発掘調査報告書刊行に向けて、引き続き整理作業を進めてまいります。

桃生 植立山の象徴再生、保存へ

植立山公園でアカマツ植樹



桃生植立山公園の象徴である松林を保存、再生しようと、地域自治システム「ものう夢ネットワーク」(伊藤桂子会長)の役員ら約30人が7月4日、アカマツの苗木600本を植樹しました。江戸時代からの歴史ある松林ですが、近年は松くい虫被害で数が減っています。「松の木を植えよう」と題したこの植林活動は平成28年から行われ、6年間で植えた松は4,485本になりました。

石巻 歓迎! チュニジア選手団

石巻で五輪の事前合宿

チュニジア共和国の重量挙げ選手とコーチら9人が7月12~22日、石巻市内で東京五輪の事前合宿を行いました。新型コロナウイルスの予防で関係者のみの出迎えと見送りにりましたが、復興ありがとうホストタウンとして万全な練習環境を提供しました。7月19日には齋藤正美市長が練習場所の石巻トレーニングセンターを訪れ、記念品とともに激励の言葉を贈りました。



河北 大川地区に集いの場が復活

テープカットで完成祝う

石巻市大川コミュニティセンターの開所式が7月30日に行われました。地域の住民組織である大川地区振興会の方々などが出席し施設の完成を祝いました。大川地区では、東日本大震災により地域のコミュニティ活動やスポーツ・健康づくりのために利用されていた全ての公共施設が被災し失われていたことから、体育館や調理室の機能を備えた、地域の集いの場として活用されることが期待されています。



雄勝 「おがつ市」開催

新鮮ウニを予約販売

「おがつ市」が7月11日に道の駅・硯上の里おがつで開かれました。コロナ禍で特産のホタテやウニの直売会が中止となる中、今回の目玉は新鮮な活ウニの予約販売です。引渡し前から長い列ができ、開始時刻になると次々と保冷箱に入ったウニが手渡され、海産物が入った福袋も販売されました。また会場では射的、輪投げなど縁日コーナーや屋台も並び、夏祭りのような雰囲気を作り出していました。



河南 44チームの頂点目指し熱戦

旭山旗争奪少年野球大会

第29回旭山旗争奪少年野球河南大会(同大会実行委員会主催)が7月4・11日、河南中央公園野球場など6会場で行われました。今回は地元の須江小クラブスポーツ少年団45周年記念大会として開催され、県内の44チームがトーナメントの頂上を目指して熱戦を繰り広げました。昨年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止になり、2年ぶりの開催になりました。



北上 水路の生き物採取に夢中

北上小児童が校外学習

北上小学校の2年生16人が6月25日、学区内の水田を訪れ、身近にどんな生き物がいるのかを調べる校外学習を行いました。水路からドジョウやザリガニ、カエルといった多種多様な生き物が見つかり、柄付きの網を握りしめた子どもたちが採取に夢中になっていました。授業は地元の保全会や県、土地改良区が協力し、講師から種類の見分け方や飼い方も教わりました。



牡鹿 牡鹿中学校の生徒が「侍ソーラン」を披露

網地島で清掃活動

地域の復興や活性化に取り組もうとする心情を育てることを目的に、牡鹿中学校の生徒が7月6日に網地島の白浜海水浴場で清掃活動を行いました。清掃活動後には、長渡港・白浜海水浴場で、牡鹿中学校の伝統芸能である「侍ソーラン」を披露し、網地島の地域の方々に笑顔と元気を届ける活動を行いました。

